

企業名： ジーテック

レポート名： G-TECK REPORT 2021

1. この会社が目指す姿が理解できるか

ジーテックは、現在世界各国で進行している自動車のEV化に対応して、EV車の車体開発プラットフォームに当企業の強みであるモーターコア開発やバッテリーハウジングの分野から新規参入することに成功した。これからは、EV化の主な拠点となっている中国、北米、欧州に事業を展開していき、効率的な生産工程を確立する。そのうえでEV車向けの車体部品を製造し、事業の拡大を目指している。また、脱炭素社会に対応すべく、製造する車体から発生する二酸化炭素の排出量を減らすだけでなく、生産工場からの二酸化炭素の排出も最小限に抑えようとしている。

2. この会社の競争優位性が理解できるか

自動車のEV化に応じて、バッテリーハウジングに新規参入する自動車部品メーカーが相次いでいるが、それだけを売り込もうとしている会社の製品は車体との関連性に欠けるといふ欠点がある。しかし、ジーテックはEV向けプラットフォームを開発初期から一括開発可能な体制を確立しており、それが大きな強みとなっている。また、ジーテックの前身は金属プレスメーカーであることもあり鉄、アルミの成型、接合技術に長けている。その技術ポテンシャルの土台の上にEV関連のような新たなニーズに対応した技術をアドオンしていけるという点も他の企業と比べた際に優位に立てる要因となっている。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

現在気候変動による自動車のEV化が活発に行われている。これからもそのような気候変動が続いていくと考えられるので大規模消費地である中国をはじめとしてEV車の需要が高まっていくことは自明である。そのため、今の段階で中国に注目して工場を展開すると、EV車の需要の高まりとともに規模の拡大も狙えると考えられる。しかし、長期的な視点で見ると、中国の自動車メーカーのほうが多量生産に関する知見や技術は優れていると思われるし、大量の原材料を仕入れるのに都合のいい仕入れルートも多数握っていると考えられるので、中国市場は現地の企業に支配される可能性があるとも考えられる。それに加えて、自動車は動くエネルギーが変化しても車体部品はそれほど大きな変化はないので、急な技術革新を迫られる可能性も低いと考えられる。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

ジーテックでは、EV事業拡大のための人材をモーターなどに関する知見を持つ中途採用

者から採用し職務を明確にして報酬と対応させる「ジョブ型」制度に力を入れている。これはEV事業が現在世界中で拡大されている中で、その市場内で優位な地位を得るために他企業よりも一刻も早く効率的な生産工程を確立することが重要であると考えられるからである。しかし、この「ジョブ型」制度に固執しては、すでにスキルや知見のある人たちがばかりが成長するばかりで新卒の就職者のスキルが育つとは考えにくいいため、「ジョブ型」制度と将来世代の技術向上をバランスよく両立することが大事であるとする。

5. 報告書にはどのような改善余地があるか

報告書には新卒の人材について、どのような人材を企業が求めているかは明確に記されていたが、採用後にどのようなステップを踏んで技術や知見を深めていくのかが記されていないように思えたので、それを明記していただきたいと感じた。